

■平成23年度 市民公募型パートナーシップ事業 助成事業一覧(順不同)

	団体名	概要
1	Ladies' Eco Circle “プラムロード”	シューレは、ドイツ語で学校を意味する。小学生とともにエコについて学ぶ学習会の企画・運営や、学校でのごみ分別プロジェクトの実施、さらにコミュニティー回収の紹介やごみの行先紹介など、小学校と地域に根差した様々な活動を通して、地域からごみ減量活動を推し進める。
2	京都市立 伏見板橋小学校PTA	伏見板橋小学校を中心に、地域の祭りやイベントでのリユース食器利用のインフラ整備を行う。また環境・ごみ減量を体験できる秋まつりを実施する。
3	「体操服！いってらっしゃい、おかえりなさい」プロジェクト 実行委員会	子どもたちが着る体操服をごみにしないため、小中学校や保護者向けの体操服のリユースやリサイクルについて紹介する啓発ツールを製作する。啓発ツール内では、どうしても着ることができなくなった体操服のリサイクルの仕組みについて紹介し、PRを行う。
4	静原小学校 学校運営協議会	静原地域の清掃活動をとおり、ごみの現状を自治会便り、学校便りなどで地域住民に周知する。それとともに間伐材を利用したプランターを製作し静原地域をコスモスで満たす。
5	特定非営利活動法人 地球環境デザイン研究所 ecotone	イベントなどの非日常的な場でのごみ減量として、長年行ってきたリユース食器の取組を、日常の生活の中でのごみ減量に結びつけていくためのキャンペーンを開催し、そのための啓発ツール等を製作する。
6	北区地域ごみ減量推進会議	ごみ減量について三世代に伝承していくため、各世代が集い、交流することができる「ECOを楽しむ・育てるみんなのフェスタ」を開催する。このイベントでは、リユース食器の体験や、これまで北区ごみ減量推進会議で行ってきた様々な取組紹介などを行う。このことで、地域におけるごみ減量の取組を確実なものとしていく。
7	一般社団法人 蛍光管リサイクル協会	蛍光管の適正処理・再資源化のための情報提供・啓発活動、行政、地域団体や事業団体との協働の取組の連絡調整などを行う。このことで、適正処理の仕組みを継続的に行える枠組みを作り上げることに寄与する。
8	びっくり！エコ実行委員会	東北の被災地と京都の子どもたちが、一つの絵巻物にそれぞれエコ（特にごみ減量）をテーマにした絵を描くワークショップを行う。自転車が東北と京都をつなぎ、絵巻物と子どもたちの想いを運ぶ。子どもとエコの力を集結・発信することで、日本を元気づける。
9	3R・低炭素社会検定 実行委員会	災害廃棄物やそれらへの対応から浮き彫りになる現在の「3R」の課題や、今後の在り方を、市民目線で記録し、考え、今後の行動指針を模索する。このために、被災地訪問を実施し、市民向け報告会を開催する。さらに、課題を洗い出し、この課題の解決策を検討するワークショップを開催する。これらの内容を紙芝居等にまとめ、今後も活用できるツールを製作する。